

平成31年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻高等学校）

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 一人一人を生かす学びの定着（学力の向上を目指して） 進路指導の充実（夢の実現を目指して） 生徒指導の充実と人権教育の推進（豊かな心の育成を目指して） 国際理解教育の推進（国際社会で活躍する生徒の育成を目指して） 保護者・地域との連携（信頼される学校を目指して）
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年度評価（1月23日 現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 生徒は落ち着いた態度で授業に臨んでいる。始業前の朝学習の取り組みは、各学年での指導が浸透し良好である。</p> <p>【課題】 受動的な姿勢の生徒がまだ多く、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。生徒の意欲を引き出す授業力向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む生徒を育成する。新教育課程の編成を年度末までに確立する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①定期考査や小テスト、朝学習や週末課題に意欲的に取り組み、学習成績の向上を図る。 ②学習リサーチの結果などを活用し、生徒の学習意欲の向上に努める。 ③授業の公開や見学、Webを利用した授業研究システムや各種研修を活用し教員の授業力向上を図る。 ④新教育課程の編成までに教科会や委員会、企画委員会や職員会議で十分な検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①成績優良者数の増加と成績不振者数の減少が図れたか(昨年度比)。 ②基礎学力テスト、模試などの成績の向上が見られたか(通年)。 ③教員相互の授業見学シートが活用されたか、Web 授業研究システムや各種研修の利用率は高かったか(授業公開期間、通年)。 ④新教育課程の骨子は編成できたか(年度末)。 	<p>目標は概ね達成された。現状の取り組みを維持しながら、課題の解決のための改善策を検討する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成績優良者 215 人(58 人増)、不振者 22 人(8 人減)であった。 ②良好に推移している。1 年生の成績は前年度よりも向上している。 ③Web 授業研究システムは約 2 割の教員が活用した。授業アンケート結果を各職員の授業改善資料とした。 ④基本構想の概要は決定した。実施に向けた詳細を今後も検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性を伸ばす指導には、更なる工夫と改善を要す。新たな本校の将来像の確立や「育てたい生徒像」を明示するなど、指導の具体的方策を検討する必要がある。小委員会の立ち上げを検討する。 ○教科横断的な視点を持ち、進路指導と連動した教育活動の具体化が必要である。指導目標と内容の可視化を目指し、各部署で具体案を作成する。
2	<p>【現状】 キャリア教育の視点に立った指導計画を実施している。将来を見据えて進路選択をする意識が希薄な生徒もおり、地道な学習活動に不足が見られる。</p> <p>【課題】 各進路行事・獨協大学との連携などの経験を通じて進路意識の向上を図り、意欲的に進路実現を目指す生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視線に立ち、進路実現に向けて意欲的に学習に取り組む生徒を育成する指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ガイダンスや講演会、模擬授業や面談などの進路行事を通じて進路意識の向上を図る。 ②ICT を利用した外部情報を活用し、生徒一人一人に応じた進路指導を行う。 ③時間の有効利用を指導し、授業以外の学習場面への生徒の積極的な参加を促す。 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路行事を有効かつ計画に従って実施できたか(通年)。3 年生の進路決定率も向上したか(昨年度比)。 ②クラウドサービスを活用する校内組織は効果的に運営できたか。ポートフォリオ作成に向けた指導が実施できたか(通年)。 ③進学講習の参加者、模擬試験・各技能検定・センター試験の受験者は増加したか(昨年度比)。 	<p>概ね計画に基づき達成された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①前年並みに 8 割を超える生徒が進路決定した。 ②ポートフォリオ作成は、次年度導入予定の新システムに合わせ今後継続して検討する。WEBによる進路指導ツールを活用してきめ細かな指導ができた。 ③模試の見直しを行った。生徒の意欲向上を図る。一般受験者は 34 名(9 名減)となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定時期が例年に比べ早い傾向がみられる。国・県の動向をみて入試に柔軟に対応していく。 ○模試の見直しを図ったことをはじめ、指導内容と目標を可視化し、進路指導が学校教育活動全般と連動するように検討していく。 ○従来の指導を活かしつつ、生徒個々の進路実現が図れる指導を研究する。
3	<p>【現状】 基本的生活習慣の乱れも少なく、生徒は落ち着いて生活している。学校全体での整容指導も行き届き、生徒の規範意識も定着してきている。</p> <p>【課題】 学年差のない統一感のある指導をさらに進める。登下校のマナーの向上を図り、悩みを抱える生徒への対応を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識を定着させ、社会の中の一員としての意識を持たせる指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校全体で統一感のある指導を徹底し、基本的生活習慣・規範意識の定着を図る指導を実施する。 ②登校指導(毎日)と交通安全指導を実施し、登下校のマナー向上と交通事故を防止する。 ③集会等を活用しトラブル防止の啓発を図る。悩みを抱える生徒への教育相談・生徒指導体制を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①計画的・継続的に整容指導が実施できたか(毎日・通年)。指導内容の統一が図れるように教職員間で確認ができたか(通年)。 ②登下校のマナーに関する苦情や重大な交通事故はなかったか(通年)。自転車交通安全指導は計画的に実施できたか(各学期)。 ③生徒指導(特にSNSに関するトラブル)件数は減少したか。不登校や専ら退学者数は減少したか(昨年度比)。 	<p>落ち着きのある学校生活態度が定着している。細やかな指導は継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指導の統一が進み、生徒の規範意識が定着しつつある。 ②登校指導(毎日)、交通安全指導を実施したが自転車交通事故が 8 件あった。 ③転退学者は 7 名(3 名増、昨年同率)である。生徒懲戒のうち、SNSに関するトラブルが多く、防止の指導が急務である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の校外のマナー等についての意見や苦情が減らない。規範意識を向上させる指導の研究が必要である。 ○SNSに関するトラブルは、情報技術の進歩と生徒の実態が教職員の認識を超えている部分がある。毎年、教職員の共通理解と指導の手立てを確認する必要がある。悩みのある生徒への指導は継続してきめ細やかに行う。
4	<p>【現状】 海外授業体験学習などの行事も定着し、国際理解教育をさらに進める意識が醸成されつつある。</p> <p>【課題】 各種取組の効果を学校全体へ広げる検討を行う。効果的な情報発信を研究し、国際交流や国際理解に対応した高い学力を身につけた生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で国際理解教育を進める取組を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①海外に関する派遣や受け入れを積極的に行う。 ②国際理解教育に関する特色ある行事を充実させる。 ③国際理解教育の取組を情報発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①海外授業体験学習の参加者は増加したか(昨年度比)。留学に関する広報や応募、受け入れに積極的に応じたか(通年)。 ②講演会や国際文化科の行事は効果的かつ計画通りに実施できたか。行事の効果について検証は行われたか(通年)。 ③学校ホームページ・リーフレットの活用は有効だったか(通年)。 	<p>昨年度同様取組ができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①北米、パナマツ、韓国のほか、豪州派遣(参加生徒上限 30 名)を行った。インドネシア・豪州の留学生を受け入れた。 ②③日本赤十字職員の講演をはじめ企画を計画通り実施した。学校ホームページ・リーフレット、全校への体験報告等で取組成果を広報できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の経済的負担軽減を踏まえて取組事業の検証を進める必要がある。 ○国際理解教育を全校に浸透させるためには、国際文化科・国際交流部が中心となり、校内で横断的に共通認識を持たせるための改善が必要である。
5	<p>【現状】 部活動による発表会や小高交流事業の実施、地域行事への参加など、可能な範囲で積極的に地域交流を行っている。</p> <p>【課題】 学校教育活動の内容をさらに情報発信し、ボランティア活動に参加可能な生徒数の拡大を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の情報発信を進め、保護者や地域住民の理解を深め、地域貢献を通じて生徒の学びを豊かにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動や地域主催行事、交流事業などに参加し、生徒・教職員と地域住民等との交流を促進する。 ②学校ホームページによる情報発信を進め、PTA組織や地域と連携して教育活動の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①恒例の行事(岩槻祭り(8月)、地域防災訓練(9月、3月)、区内3小学校との交流(9月)、部活動によるイベント参加)など、積極的にボランティア活動等に参加したか(通年)。 ②学校ホームページによる情報発信の更新は即時行われたか(通年)。 	<p>これまで通りの取組が実施できた。地域貢献で知事表彰された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①恒例行事に加え、九都県市防災訓練へ 69 名が参加した。台風 19 号による避難所として 16 名が使用した。 ②学校ホームページ担当(教務)の役割が明確になり、スピーディーに多くの情報発信ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携も、これまでの実績を維持しながら、タイトな行事予定の中でも効果的に実施する。 ○中学校訪問の実施を見直した。中学生を対象とした広報活動の新たな方策を検討する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p><学校評議員会>・昨年度に比べ転退学者数の増加が見られる。スクールカウンセラー等も活用され、早期の対応をされていることと思うが、特別な配慮が必要な生徒である可能性も視野に入れて対応することが求められている。・校内におけるWi-Fi の環境下でのタブレット等の活用が求められる時代になっている。SNSの問題が発生しているという状況はありながらも、IT機器の活用は急務であり対応が望まれる。スマホ安全教室等による生徒への指導を徹底する必要もある。・昨年の19号台風の際には、16名の避難者が岩槻高校を避難所として利用させていただいた。地元地域としてもたいへんありがたいことである。今後の気象状況を考えると、本校の存在は大きく感じられる。・生徒の登下校等における交通マナーに対する苦情については、近隣での問題はあまりないと思われる。更なる改善がなされることを期待する。生活のさまざまな場面で適切な対応のできる生徒を育てるための指導をお願いする。・学校自己評価システムシートの達成度については極めて冷静に判断されている。その中で現在の教育については、IT活用しながら教育活動を進めるべきであり、その環境を整える必要がある。・生徒に関してもIT関連機器の使い方に関するトレーニングを行う機会が必要であろう。保護者や教師の皆さんにとっても、ラインやインスタグラム等がわかりにくい状況がある。生徒を知るためにもそれらを学ぶ必要が出てきているのではないかと。<学校評価懇話会>・生徒の成績優良者の増加は、朝学習の一つの成果であろう。保護者アンケートの家庭学習時間について、30分以下が多くことから予測として長時間にわたる学習状況がないように思われる。・先生方が進路補習を設定されていることは重要である。参加形態を生徒の意志に任せるという形式についても生徒の自主性を尊重する適切な環境設定である。キャリア教育もモチベーションの育成に繋がっており、自主性を育む面においても効果的である。・IT関連に関する勉強ツールやタブレット等による教材活用、今後の大学入試に關係するであろうポートフォリオやクラウドサービスの面についてもWi-Fi等の環境整備が必要である。これは、通信費の削減にも影響を与えることができる。・生徒会の皆さんが発言時にマスクをはずしてあり、生活マナーが守られていると感心した。先生方の指導の成果であろう。一方、保護者アンケートによると学校の電話対応に対して課題を感じる。先生方には生徒にとっての模範になってもらいたい。電話対応の改善や身だしなみの面にも配慮をお願いする。</p>	

